

今日を生きるから、未来に生きるへ。 モザンビークで日本の知恵をつないでいく。

Concept

活動主旨

豊富な資源や人口増加を背景に“資本主義最後の楽園”といわれ熱い注目を浴びるアフリカ。その東南部に位置するモザンビーク共和国は2001年以降7%を超える経済成長率を続けているが、政府予算の3割は外国からの寄付に依存している。国民の生活はというと、人口の60%は1日の収入がUS\$1.25以下（貧困ライン）の絶対的貧困状態にあり、依然として世界の最貧国の1つである。

また、2016年の人間開発報告書（国連開発計画UNDP:2017年3月発表）によると、モザンビークの人間開発指数は188ヶ国中181位である。

<モザンビークのいのちをつなぐ会>モザンビーク事務局があるモザンビーク北部のカーボデルガド州でも安全な水や食料へのアクセスが確保されているとはいえない状況であり、慢性的な栄養不良や病気で5.5人に1人の子供が5歳の誕生日を迎えることができない。さらには、50%を超えるとされる失業率、農業生産性の低さ、教育の質やモラルの低さ、コミュニティの崩壊など、解決困難な課題を多々抱えている。

外資の参入が増加し、潤沢なマネーを武器にしたアフリカの新植民地時代といわれる今。

<モザンビークのいのちをつなぐ会>では、問題を上げれば数限りないこの地で、人々が生き抜くために必要な「知識と知恵」を日本との協力によって注ぎ、カーボデルガド州の貧困層が抱える問題を住民一人ひとりが自らの力で解決できるようサポートし、食と健康、教育、環境等のQOLの改善に努めることで、同じ世界に生きる人々の生命の尊厳の向上に貢献する。

Mission

ミッション

DIY, our future! ~自分たちで自分たちの未来を創造する~

その創造力を養うために日本と協働し、QOLを向上する活動を実施。

Domein

活動領域

- ①アフリカ・モザンビーク共和国における教育支援事業、人財支援事業
- ②アフリカ・モザンビーク共和国における貧困削減、環境保全事業
- ③アフリカ・モザンビーク共和国における公衆衛生設備整備事業
- ④日本とアフリカ・モザンビーク共和国の国際交流のための講演会やイベント開催事業

Vision

ビジョン

乞う立場から与える立場へのスキルアップと良好な連鎖の形成。
アフリカ・モザンビークの今と未来を支えるために
個々が自立し、指導者やヒーローを輩出する

Contact: may@tsunagukai.com



<中期目標> 現地住民のみならず当会スタッフも健康的な生活が可能になる
有給の活動と事業の選択と実行による、自立の芽の育成。

	2018年	2019年	2020年	2021年～2022年
事業目標	事業継続可能とする 組織体制の強化	収益事業の始動	人材スキル向上と 収入の確保	コミュニティ広場の開発の ための基盤づくり
課題	組織の存続のための人件費の確保			
	資金調達方法の試行錯誤	仕事の創出と人件費の捻出	事業創出のためのスキル習得	自立のための「場」の拡大
特に注力する 分野	寺子屋スタッフへの 再教育	ボン菓子製造や、 他事業の始動	スタッフの増強と 免許、技術研修	コミュニティスペースの確保、 ハード・ソフト両面整備
◆事業活動				
教育・寺子屋	学習スペース拡大 ・読み書き、算数、音楽、工作、公衆衛生、スカイプ交流等の授業	授業の恒常化		ミシン、大工等就業トレーニングも開始
教育・事務局	・事務局建築・設備着手	(事務局の改修、倉庫増設、防犯設備の整備)		
公衆衛生・町	美化活動 水タンクと浄水器設置	浄水システムの導入	浄水器の配布	
公衆衛生・農村	水道インフラ整備 ・農村協同組合主導で実施。当会は日欧米基金申請のサポート		公衆衛生研修施設建設	
農業(緑化含)	有機農業 食べられる植林(モリンガ)	グアバ等果物)		
食と栄養	・ボン菓子製造機設置・テスト稼働とテスト販売	ボン菓子製造販売	→ → →	拡販
国際交流	・マコンデ族来日公演(通年) 国際相互協力とスカイプ交流を含む			
	福祉施設、学校重点	寄付制度導入	福祉施設、学校重点	寄付制度導入
◆組織活動				
優先事項	現地協働組合設立①	現地協働組合設立②	欧米基金とのネット ワーク構築	欧米基金を用いた 活動の開始
取り組み	◎無給から有給へ スタッフが生きていける 組織づくり ◎モ国認可協働組の設立 ◎アフリカ圏内NGO視察 ◎寄付制度試行錯誤 ・中古車購入 ・新聞社や情報誌の コラムの掲載	◎モ国認可協働組の設立 ◎アフリカ圏内NGO視察 ◎寄付制度の導入 ◎モ国教育補助制度の ヒアリングと実施検討	◎欧米NGO等との 面談に注力(視察含め) ◎欧米基金との交渉力 習得のためのスキル アップ研修	◎外資や政府の委託 事業の獲得
予測される 出来事		大統領選		2022年までに、カーボデル ガド州バルマでの巨大ガス田 掘削開始
	2018年	2019年	2020年	2011年～2022年

モザンビーク唯一の日本のNGO団体として。地道にしっかりと歩み続けるために。

2018年度には設立より6年目となるNGOモザンビークのいのちをつなぐ会。

これまで猪突猛進で活動を展開し、主要活動であるスラムの学舎・寺子屋も現地に定着し、当代表や寺子屋ディレクターが不在時にも活動が回る体制が出来てきている。

一方で、寄付に依存せず助成金を主とした資金で活動を展開しており、人件費が捻出できないことにより活動すればするほど当会スタッフの生活が厳しくなる状況に陥っているという課題を克服する。

① 持続的に活動するための当会スタッフの最低限の暮らしを保障する資金の調達。

2018年度・2019年度は、活動数を増やすよりも、組織基盤を再構築するため、資金調達方法やツールを整備する試行錯誤の期間とし、同時に、現地活動を進めながら、現地モザンビークの力を日本で活かすことを目的とした国際交流活動では日本の社会問題となっている福祉分野や子供分野を対象とした講義・公演活動を行う。

② 現地住民の自立と当会の持続のための収益事業の創出。

また、失業率が7割と非常に高く、仕事が非常に少ない現地で、いのちをつなぐ糧となる仕事を創出するためボン菓子製造や運送などの失敗しても赤字の少ない事業からチャレンジしていく。

③ モザンビーク政府認証の現地協働組合の設立。

当会では2015年より現地NGO法人設立申請をしているが前例がないということで保留されたままになっているため、NGO法人よりもハードルの低い協働組合 (associacao) で政府認証を取得し、欧米の基金にも申請できる体制を整えていく。これは現地スタッフが自立し設立する団体ともなり、青年有志が情熱を注ぎ、またビジネススキルを磨き、自立を大きく促すための大きなステップとなる。

2018年度

【事業目標】 事業継続可能とする組織体制の強化

→当会スタッフの人件費を捻出するための知恵を日本の有志とともに練る。

→寄付文化が非常に希薄で大手NGOが寄付金を総取りしているが中小NGOには資金が回らない日本の慣習の中で、どのように当会として資金調達を行うのかプレストする。

【特に注力する分野】 寺子屋スタッフの再教育

→仕事をスムーズに遂行するための考え方ややり方を再度話しあい、実行する。

【各活動の主な取り組み】

<教育活動> ●スラムの学舎・寺子屋のスペースの拡大 ●寺子屋・事務局での子供教育活動
●事務局の改修着手のためのプランニング

<公衆衛生活動> ●ペンバ市での美化活動 (ナティティ青年美化隊) ●水タンクと浄水器設置
●公衆衛生教育スタート ●農村での水道インフラの整備

<農業活動> ●農村での有機農業の継続 (協働NGO・GSB) ●食べられる植林 (モリンガ、グアバ)

<食と栄養> ●ボン菓子製造機の稼働とテスト販売

<国際交流活動> ●マコンデ族の来日公演 (福祉、学校に重点、追って寄付金システムも導入)

【組織活動の優先事項】 現地協働組合の設立 (約2年想定)

<組織活動事項> ◎モザンビーク政府認証協働組合の設立準備 ◎アフリカ圏内NGO視察
◎中古車購入

2019年度

【事業目標】 収益事業の始動

→当会の持続と現地住民の自立を目的とした収益事業としてポン菓子製造や運送等の事業に着手。事業構想は現地青年有志とブレストして決定する。

【特に注力する分野】 ポン菓子製造や運送等、収益につながる事業を模索

【各活動の主な取り組み】

- <教育活動> ●スラムの学舎・寺子屋と事務局での教育の持続 ●事務局改修、倉庫建築等
●ミシンや大作業など就業トレーニングになる科目も加えていく
- <公衆衛生活動> ●ペンバ市での美化活動（ナティティ青年美化隊）●浄水システムの導入
●公衆衛生教育 ●農村での水道インフラ整備
- <農業活動> ●食べられる緑化・モリンガとグアバの植林 ●農村での有機農業の継続
- <食と栄養> ●ポン菓子の拡販に向けた営業体制とツール整備
- <国際交流活動> ●マコンデ来日公演と現地ディレクターの日本語教育

【組織活動の優先事項】 現地協働組合の設立（約2年想定）

- <組織活動事項> ◎モザンビーク政府認可協働組合の設立 ◎アフリカ圏内NGO視察
◎寄付金システムの導入 ◎モザンビーク政府教育補助制度のヒアリングと検討

2020年度

【事業目標】 人材スキル向上と収入の確保

→人件費が捻出できる活動への集中および人材の各種能力（算数・パソコン・英語・建築・機械修理技術）向上。無給体制の改善度を高めていく。

【特に注力する分野】 スタッフの増強と免許、技術研修

【各活動の主な取り組み】

- <教育活動> ●スラムの学舎・寺子屋と事務局での子供教育活動の持続
●事務局の防犯の強化により安全性と業務の快適性がある事務局としての体裁を整える
- <公衆衛生活動> ●ペンバ市での美化活動（ナティティ青年美化隊）●浄水器の配布
●公衆衛生教育の持続 ●農村公衆衛生研修施設の建設（施設名称仮：SATLIC）
- <農業活動> ●食べられる緑化・モリンガの育成 ●農村での有機農業の継続（灌漑設備も含む）
- <食と栄養> ●ポン菓子の拡販
- <国際交流活動> ●マコンデ族来日公演

【組織活動の優先事項】 欧米基金とのネットワーク構築

- <組織活動事項> ◎欧米NGO等との面談に注力、視察等を含めてネットワークを構築していく
◎現地協働組合スタッフの助成金取得にむけた交渉力習得のためのスキルアップ研修

2021~2022年度

【事業目標】 コミュニティ広場の開発のための基盤づくり

→貧困改善と正しく生きる意識を身につけるため、また、ひととモノと経済を回すための「場」づくりに着手。寺子屋以外のスペースで「商い」が可能な場をスラムに設ける。
→当会の目的となるスラムに住む住民の「自立」に向けた、大人向けの施策となり、子供を主な対象とした学びの場である寺子屋と両軸で動くようにする。

→寺子屋で学んだ子供たちが、ディレクションしていけるような成長と経済が循環する仕組みになるようにフレキシブルに取り組んでいく。

【組織活動の優先事項】 欧米基金を用いた活動の開始

- <組織活動事項> ◎外資や政府の委託事業の獲得